

天見小校長室だより 7月号

人の温かみを感じられる学校 みんなで笑顔と元気を作り出せる学校

梅雨が明けました。毎年、夏休みの声を聴くころに梅雨明けがありますが、今年は、平年より21日も早くに梅雨が明けました。6月中に開けるのは観測史上、初めてだとか。地球の温暖化が心配です。今日もとてもいい天気、日差しも、暑さも、夏そのものです。プールからは元気な子どもたちの声と水音が響いています。人数が少ない利点で、指導が行き届き6年間で大抵の子が20m、30mを泳げるようになって小学校を卒業していきます。泳げるようになった子どもたちのうれしそうな顔を見ると、こちらまでうれしくなりほっこりしてしまいます。最近の心配はやはり熱中症ということになりますでしょうか。夏の特別水泳教室については、上記のことも考えて昨年より少し時間や日にちを少なくしたものの（日程を3日間に、時間を60分間の入水）、行うことに決めました。特別水泳教室で泳げるようになって嬉しそうにしている子どもたちの笑顔がたまらなくいいからです。万が一、雨が降って寒い日や、逆に暑すぎてプールに入れられない場合は、8時までにテトルでお知らせします。「特水に来ませんか。」とお声をかけられたお子さんは「泳げなくて残念！」ではなく「ラッキー！」と思って、泳ぎを勉強しに来てほしいと思います。プールも熱中症も、両方、命に係わる大切な勉強ですので、その場その場の状況を見ながら進めていきたいと思ひます。

川遊び 6月の「烏帽子だより」の記載記事を読む

毎回、校長だよりは、校長の目線で見えた子どもの様子や、自分が感じていることなどを載せさせていただいています。今回、天見小学校での特別なプログラム「川遊び」で、お世話になっている松尾様より活動記録の記事をいただきました。子どもたちの様子を本当によく見てくださってありがたく感じましたので皆様にも知っていただきたいと思い、載せさせていただくことにしました。

日時：2025年6月2日（月）9:45～12:10

会場：河内長野市立天見小学校 対象：1年生9名、2年生8名と先生3名の20名
協力スタッフ：田原、広瀬、松尾



天見小学校は河内長野市の山間部にあり「小規模特認校」で校内の真ん中を天見川が流れている。今年もこの川で1.2年生17名を対象にした「川あそび」の授業に当観察会が協力した。

当日、天候は晴れで川の水量も少なめで採取には好条件だった。（スタッフは始まる前に川の様子などを調べ、安全確認などを入念にして、子ども達が手ぶらで川を渡り川原まで行けるように網やバケツを観察場所まで運んで置く）

9時45分 授業の始まりで子ども達は校舎の玄関前に整列。元気に「おはようございます」と挨拶をかわし、スタッフの紹介などがあり、細い道を川へ。川へ降りる斜面は急なので木製の大きな梯子が設置されている。水面に降りると水は冷たい（水温16℃）、岩で川幅が細く流れが急な所は両岸で先生が手をさしのべ介助。平らになった水の中で集合して、活動の範囲や注意事項、班で行動、網の使い方など説明をする。



4班に分かれて採取の開始。川の中の大きな石の下や、草付きの下に網を置いて上流側を足でガサガサ・・・。「小さい魚とれた」「ムシ触るの、気持ち悪い」「つかめない」「ムカデがいる」と。少し時間が経つと今度は「魚を採りたい」「カニ採りたい」との希望や「何にも採れへん！」の声も聞こえる。一方では、「これエビや!」「これで虫3匹目や!」の声も。

スタッフから凄いと褒めてもらって顔もにっこり!「何も取れていない」と言う子と一緒に石の下に網を置いて石を足で動かして網をあげると、小さな魚や虫が入っていて「魚とれた!」と喜んでスタッフの持つバケツへ、「どこでとったん!」と声を掛けられてうれしそう。川での活動を予定より10分延長。慣れてきてもう少し遊びたいが、これまで!

一旦教室に戻り着替えて理科室に集合。各班のテーブル上に「さかな」「むし」「いもむし」「かに・かい」「そのた」と書かれた用紙の上に透明のケースをセットする。川から持ち帰った生き物の入ったバケツを白トレーに移し替える。

前の大型テレビで生き物を5種類に分ける説明を聞き、班で透明ケースに分けて入れている時、1年生の女の子が「虫つかめない、怖い!」と尻込みをしていると2年生の男の子が来て、虫をさっとつかんでケースへ入れてやっていた。少しづつ虫を触るのにも慣れてきた子もいて、気持ち悪いと言いつつ触っていた。ケースに入った水生生物を分類毎に順番に観察してゆく。

①「さかな」カワヨシノボリを見て頭が三角の形、お腹の吸盤のことを聞いて確認する。1cmほどの小さい魚がいて虫眼鏡でお腹の模様をみると黒い筋がみえたのでカワムツ

②「むし」カゲロウ・カワゲラ・トンボの各幼虫などが

③「いもむし」ヘビトンボ・トビケラ・ガガンボ。先生が「ヘビトンボこんな初めて見た!」と。「ムカデ」のようだが水の中に居て体の横にあるのは「えら」で足ではないこと。④「カニ・カイ」サワガニは大・小さい、カニは皆の人気者。カワニナはホタルの幼虫がこの貝を食べる。

この近くにはホタルがいるということがわかる。⑤「そのた」ナベブタムシはケースの中を走り回っていて形が鍋の蓋に似ているこんな名前。アメンボはケースの中を飛び回っている。エビも1匹入っていると、「僕が捕まえたんや!」と声が、他の班にも順番に見てもらふ。最後に感想を聞いて、「生き物を大切に! 川を汚さないように! 今日採取して生き物は川へもどしてあげよう」と話をして2.3限目の授業はおわり。

4限目「水生生物のずかん」の作成用紙に、一人ひとりお気に入りの生き物を小ケースに入れて、絵と特徴などを記入する。終わり頃に2年生に先生が教室へパソコンを取に行くように言われ、パソコンを持って戻ってくると、先ほど自分の描いた生き物を写真機能を使いすばやく撮影していた。先生は「後で見ること拡大しても見られる。また次の授業で活用する」と。スタッフは今時こんな風に2年生でもパソコンを使っているのかと感心!して学校をでる。

(文責：松尾 写真：田原・松尾)

観察できた生き物

カワムツ・タカハヤ・カワヨシノボリ・ダビドサナエ・コヤマトンボ・チラカゲロウ・シロタニガワカゲロウ・マダラガガンボ・サワガニ・カワニナ・ナベブタムシ・スジエビ・アメンボ他

山に囲まれた小さな学校の中に川が流れている珍しい学校。そこで学べる自然。ここに住んでいる生き物をかわいいと思える心。環境保全。やがて、この活動は、蝶の幼虫やメダカの卵やヤゴからトンボの誕生など生命の誕生に移行していく。この自然の素晴らしさと同時に、自然を大切にしようと思う心を学年に合わせた方法で、教えてくださる地域の方がいる。天見小学校の教育、他の学校では学べないことが、自然と遊びの中で学べるこの環境。たくさんの外部の方の協力を得て、子どもたちは幸せな教育を受けられることができていることに、とても感謝しています。「皆様、いつもありがとうございます。」